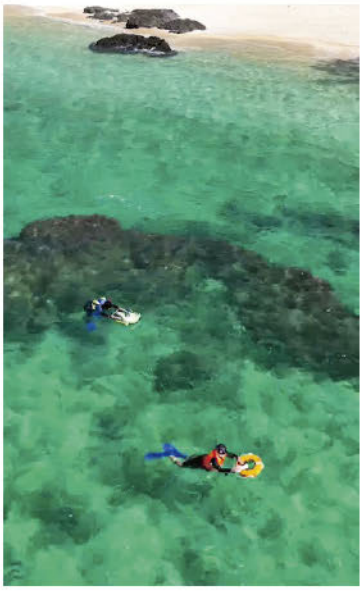
恩納村の文化財 Vol.93

恩納村の沿岸・水中遺跡について



私たちが普段生活している陸上には、はるか昔の人々が使用した道具や生活・活動の痕跡がいたるところに残されています。そのような場所は「遺跡」と呼ばれています。その一方で海や川などの水中にも古くから人々の営みの痕跡が残っています。例えるなら、世界中の海には何万隻もの船が沈んでいると言われています。また、水面の変化により琵琶湖では陸上の遺跡が水没した事例もあります。それらの水に沈んだ遺跡のことを「水中遺跡」と呼んでいます。沖縄県立埋蔵文化財センターでは、県内全域の沿岸・水中遺跡を探す分布調査が行われています。本村にも沿岸・水中遺跡が確認されており、本格的な調査は単発的に実施されていました。

そのため、文化庁の補助事業を活用し、令和6年度から恩納村独自の調査を実施し、初年度の今年度は、名嘉真～太田地区の沿岸及び海域、河川域などの調査を実施しています。その結果、様々な石材を切った痕跡である石切場跡や海域の水面下より古くは約5,000年前の縄文土器や約700年前に海を渡ってもたらされた中国産陶磁器などの食器類、17世紀以降に琉球で作られたヤチムン（焼物）などを発見しています。発見された道具の内、古くはグスク時代頃から中国や日本、タイなどから交易によりもたらされた道具もありました。島嶼県である沖縄県は、昔より船舶による交易、移動手段など、海域・沿岸域を利用した営みがありました。それを示す当該との交易を示すグスク時代の陶磁器類が海岸に打ちあがっている場所もみつかりました。もしかしたら、中世の海難事故の可能性もあり、近くの海底に古い木造船が人知れず埋まっているのかもしれません。併せて約700年前の茶の文化を示す茶器（天目茶碗）なども発見することができました。お茶好きなご先祖もいたのかもしれません。今回、調査した石切場跡の内、火山由来の石を切り出した珍しい石切場跡も名嘉真区で確認されました。

今年度から3か年計画で調査を行う予定です。新たな水中遺跡の発見や村内の歴史をひも解く発見ができるように調査を継続したいと思います。海と関連し、陸上に引き上げられた碇や船に関することや海より引き上げられた道具なども調査の対象としております。それらを調べることで昔の人々がどのような道具で生活をしていたか知ることができます。

今年度 シュノーケル調査

焼物を発見

河川の中も調べています

今年度発見の約5,000年前の縄文土器

今年度発見の約700年前の中国産白磁碗

沿岸地域の石切場跡

水中にあった薬莢

情報提供のご協力のお願い

博物館では村内の沿岸及び水中遺跡の情報収集を行っております。情報をお持ちの方は、情報提供のご協力よろしくお願いいたします。

お問い合わせ：恩納村博物館 文化係 ☎982-5112